

# プロの技で暮らし豊か

調理生活衛生 盛岡市で交流サロンモデル事業

理美容や飲食業のプロが、地域に出向いて高齢者らと交流する「交流サロン型サービス」モデル事業が5日、盛岡市好摩夏間木の小袋地区コミュニティセンターで開かれた。厚労省の補助事業を活用し県理容生活衛生同業組合(湊正美理事長)が主催。シニア世代を中心に地域住民約40人が参加し、美容や料理などの体験講座を楽しんだ。

理容、美容、食肉、すし業、社交飲食業の各組合が講師を派遣。正しいシャンプーの仕方、10歳若返りのメイク、おいしいコーヒーの入れ方など、その道のプロならではのミニ講座を開き、住民たちの質問に気さくに応じた。このうち、太巻き作りでは、住民も調理に挑戦。すのこの上での

りと酢飯を混ぜ、卵焼きやキュウリ、かんぴょうなどの具をしつかり巻き込んだ。「力を入れすぎずに、優しく愛情を込めて」と県すし業生活衛生同業組合盛岡支部長の高橋剛一さん(43)。盛岡地区生活衛生同業組合連絡協議会会長も務



高橋支部長のアドバイスを受けながら、太巻き作りに挑戦する住民たち

める高橋さんは「高齢になると、外に出掛けづらくなる。こちから出向くことでいい刺激になれば。組合員は地域に根差した店づくりをしている。それぞれの特性を生かして貢献できれば」と話した。

参加した竹田友子さん(68)は「専門家から直接、話を聞ける機会は少ないので、勉強になったし、とても参考になった」と喜んで

いた。生活衛生に関わる各組合は、地域の要望に応え、公民館などに出向いてミニ講座を開く「交流サロン型サービス」を再来年にも事業化したとしている。